

「人・農地プラン」の推進は

町長 地域農業の礎となる振興プランとして取り組みます



問 今年の奥出雲町の水田・畑作の農業は、夏場の炎天下を乗り越えて収量品質もまずまずで、農家はほっとしたところである。振り返って話題となるのは、「儲けにならない。」と言った言葉である。なかでも、個人農家は、高価な農業機械の更新に躊躇・慎重で見通しが立てられない。近隣の仲間と更新しようにも法人化前提とかで助成が得られないのが現状である。いま農業を投げ出さない助成措置が必要で農業機械の持ち寄り、格納庫の建

答 農業に限らず中山間地域では家業が成り立たなくなっている。家業から地域業と言うことであり、地域全体でいろんな取り組み仕掛けが必要に思います。特に農業は生産コストの低減や効率化が求められています。個人農家の農業機械の導入支援は、認定農業者を対象にまた、集落営農組織や農業法人に集中して行なわれています。所得補償のお金についても緩やかな集落協定の単位でお金が行く仕掛けが必要に思います。今後、「人・農地プラン」の策定を通して地域の実情に応じた町独自の支援策の拡充等についても考えながら、地域農業を守っていくよう努力します。

問 農水省は本年2月戸別所得補償経営安定推進事業として「人・農地プラン」作成事業の取り組

みを推進しています。この取り組みについて、本町はどのように進める計画か。

答 土地利用型農業の再生の力ぎを握る農業の面的集約を促すことを主目的としており、地域農業の礎となる振興プランとして取り組みます。今月中旬から、中山間地域等直接支払制度の集落協定や個別協定、また農業法人とか農外参入企業などを対象として説明会を開催します。地域農業の基本単位をどうするか、旧村単位とか小学校区単位とかで水田を主としたプラン策定する方向です。畑作地として、国営開発農地は別個プラン化を進める考えです。

問 本町における「子育て支援」の取り組みは、県下市町村の中でも充実度は上位にあると認識している。

さて、本年1月、小中学校入学時の制服購入に際し、一部援助されたいとの陳情書が仁多郡制服組合から出された。制服や体育衣料に相当額を要する実態は認識したが、小学校には自由服での登校を行なっていると、これもあり慎重に審査を行なった。その後、学校訪問や授業参観につけ、生徒児童の体操服が各学校とも体育授業に限らずもっぱら着用されており、洗い替えなど複数必要との保護者意見も多く聞けた。シャツ・タイツなど1セット1万数千円の購入費が必要で、複数となると保護者負担も大きい。町の助成は出来ないか。

答 小学校の制服につきましては、高尾、横田、馬木小学校で自由服登校となっており、それぞれ保護者の皆さんの要望のもとに実施された経過があります。制服助成は、難しいのではと考えますが、体操服は、体育活動の一層の充実にも資すると考えますので、新年度の新生から対象にする考えで検討したいと思えます。